

JISA ミャンマー・ソフトウェアセミナー 開催報告

平成 24 年 7 月 5 日（木）午後 3 時 30 分より、日東紡ビル 4 階 TKP 大会議室において、ミャンマー・ソフトウェアセミナーを開催し、約 130 名が参加した。

JISA 五十嵐 隆 副会長・国際委員長（富士通エフ・アイ・ピー（株）相談役）の開会挨拶の後、ミャンマーコンピュータ連盟（MCF）の Thien Oo 会長より、ミャンマーの ICT 産業の概要と、日ミャンマー間での ICT 産業における今後の協力について、逐次通訳を交え、約 1 時間超にわたり講演が行われた。

まずミャンマーの基本的な政治経済社会全般の概要に続き、ミャンマーの ICT 推進政策と ICT 産業の概要について説明が行われた。ミャンマーの現在の ICT 発展度は、ASEAN 地域内でラオスやカンボジアと最下位を競っているような状態であるが、現在急ピッチでインフラ整備や電子政府ネットワーク構築等を進め、電話回線密度も増やしているとのこと。また、ミャンマーには全国に 25 のコンピューター大学・専門学校があり、高度な ICT スキルを持つ人材育成に力を入れている。また、ICT 関連の法制度については、電気通信法や不正競争防止法、消費者保護法、サービスプロバイダを規定する法律、通信ネットワークに関連する秘密保護法、個人情報保護法などはまだこれから整備していく予定とのことであった。

そして、ミャンマーと日本の間での今後のビジネスについて、それぞれの国の長所と短所をうまく活用・補完し合えば、良いパートナーとなれるのではないか、ただし、日本のビジネスの課題である「スピード」が重要であり、すでにかなり積極的にミャンマーに投資している中国や韓国に遅れをとらないようにして欲しい、とのことであった。

講演終了後には、JISA 浜口会長より Thien Oo 会長に、感謝の言葉と共に記念品を贈呈し、JISA と MCF で日緬間の IT ビジネスを進めるために今後も協力していくことを確認した。なお、来年 1-2 月には、ミャンマーへ JISA ビジネスミッションを派遣する予定。

（河内）